

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後デイサービス ひだまりきっずPlus		
○保護者評価実施期間	令和 8年 1月 5日		～ 2026年 1月31 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	令和 8年 1月 5日		～ 2026年 1月31 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 24日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・利用者のことを考え、様々な場面を想定した内装は利用児童が活動する上での安全性が確保されています。設備が充実しており、カムダウンルームなど利用者への様々な配慮がで、安全維持確保のための、整備や修繕を迅速に行っています。	・利用者の特性を周知し、プログラムの内容や、展開はひとり一人に対応し、常にスモールステップで丁寧に行っています。 ・療育室のレイアウトを考え、集中しやすい空間で学習時は個々の学習目標を達成できるよう職員が指導しています。	・計画的に多様な分野のプログラムを組み合わせ、相乗効果を上げるために職員同士で協議や振り返りを行います。 ・職員同士の意見交換や情報共有の頻度を増やします。
2	・利用者、保護者、職員との信頼関係ができています。	・保護者とのコミュニケーションを大切にするために、面談を適宜行い、家庭との連携の体制が充実しています。 ・サービス提供記録からいただく保護者のコメントで、家庭での取組や様子を知らせていただき、支援後の自己評価を行っています。	・見えない部分の子どもの気持ちの理解に努め、小さなサインを見逃さないように観察記録を職員で周知します。 ・個人の活動から集団への活動へ移行していく支援の技術を上げ、成長に合わせた長期的な支援計画を立てていきます。
3	・ブレイルーム、学習、運動と目的別にスペースがある。 ・プログラムが週単位なので、子ども達が習得度が高く、再チャレンジができて成功体験を積み重ねていけています。	・成功体験を積むためにプログラム内容の展開を児童の実態に個々に合わせて行っています。 ・コミュニケーション力をつけるために挨拶や他人との距離感を職員の介入で実践的に行っています。	・児童の社会的経験を増やすために事業所として、地域交流の機会があれば取り入れたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・開所、初年度で地域交流の機会がほとんどなかった。 ・事業所の方向性が曖昧と思うことがある。	・受け入れる利用者の年齢の幅が狭い。 ・館内の視覚支援を充実させる必要があると感じる。	・事業所だけでなく地域にも利用者が馴染め安心して通所できるように活動内容を設定していく。 ・方向性を明確にし、職員の意思疎通を図る。
2	・事業所としての強み。事業所の代名詞となるものがあると良い。	・まんべんなく様々な活動を行っているが、逆に一番の強みと言えるものがないかもしれない。	・療育の中でも言語や認知機能など、専門的な分野を深めていけると良い。
3	・障害に対する知識や理解を周囲へ広めていく発信力。	・市や県への研修への参加の後、職員への定着を計画的に図り、レベルを上げていく。	・研修体制の充実させたり職員同士の勉強会を開く機会をつくる。 ・事業所の支援を発信できる媒体を増やしたり開発したりする。